

Milagros de Nuestra Señora by Gonzalo de Berceo

translated by Tsuyomasa Ota

Abstract

Gonzalo de Berceo was a Castilian poet born in the last years of the twelfth century in the Riojan village of Berceo, close to the major Benedictine monastery of San Millán de la Cogolla. He is celebrated for his poems on religious subjects, written in a style of verse that has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' work). Gonzalo is recorded as being a deacon in his home parish in the early 1220s, and as a priest from 1237 on.

Milagros de Nuestra Señora (Miracles of our Lady), Berceo's most studied work is a collection of twenty-five miracles of the Virgin Mary. The form of these miracle tales written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way) is simple as is Berceo's style in general.

The present translation is made from Tale 6 to Tale 12.

聖母の奇跡Ⅱ

ゴンサロ・デ・ベルセオ作
太田 強 正 訳

ゴンサロ・デ・ベルセオ（Gonzalo de Berceo）はスペイン北部のラ・リオハ（La Rioja）地方のベルセオ（Berceo）村で1200年の数年前に生まれたようである。何年に死亡したかは不明で、スペインで現在名前の分る最古の詩人である。近くにあったサン・ミリャン（San Millán）修道院で教育を受け在俗司祭となり、修道院長の秘書を務めた。

この作品はメステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）と呼ばれるジャンルに属するものであるが、これは中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派を意味し、文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。

ベルセオは前者の先駆けで、この「聖母の奇跡」はその代表作である。これはクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる1行14音節同音韻4行詩で書かれた宗教詩で25の奇跡物語が記されている。ベースになっているのは1910年にコペンハーゲン図書館で発見されたラテン語の写本（MS Thott 128）であるとされている。

今回は第6話から第12話までを掲載する。訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語とし

て通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

本稿は Edición de Juan Carlos Bayo e Ian Michael に基づいているが、訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英語、イタリア語訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

6 信心深い盗人

- 142 彼は盗むことこのほうが好きな悪い盗人でした
 教会へ行ったり橋を架けること ²⁶⁾ よりも好きでした
 悪事で生計を立てることを知っていました
 身につけた悪行をやめることができないでいました
- 143 もし彼が他の悪事を働いていたとしても私たちはその事は読んでいません
 私たちの知らないことで彼を責めるのは良くないことでしょう
 私たちがあなたがたに言ったことで十分としましょう
 もっと他のことをしたのなら私たちの信じるキリストよ彼を許してください
- 144 彼の他の悪事のなかに一つ良いことがありました
 それが最後に役に立って彼に救いを与えたのです
 彼は心から聖母を信じていました
 いつも女王陛下に挨拶をしていました
- 145 盗みや他のばかなことしに出かけるときは

いつも彼女の像におじぎをしていました
そして「アベ・マリア」や他の祈りを唱えていました
こうすることで心をしっかり保っていました

- 146 悪事を働く者は悪運に見舞われるもので
この盗人は盗品を持っているところを捕らえられました
彼には自分を守る術がなかったので
絞首台に送られることになりました
- 147 司直が彼を十字路に連行しました
そこには役所によって絞首台が据えられていました
目がしっかり結んだ布で覆われました
ピンと張った綱で彼の体は地面から吊るし上げられました
- 148 できるだけ高く地面から吊るされました
近くにいた人は皆彼が死んだと思いました
もし人々が後になって知ったことを前に知っていたなら
彼にしたようなことはしなかったでしょう
- 149 救出に長けている聖母が
困っている僕しもべをよく助けるのですが
この罪人を救助しようとしてしました
彼女は彼が自分にしていた奉仕を思い出したのです
- 150 吊るされている彼の足の下に
彼女の美しい手を差し入れて彼を楽にしてやりました

彼はぜんぜん苦しくありませんでした
こんなに心地よく満足したことはありませんでした

- 151 それから三日目に親戚の者たちがやって来ました
友達も知り合いもやって来ました
彼らは引っ掻いた顔で²⁷⁾ 心を痛めて彼を降ろしにやって来た
のです
しかし事は思ったより良かったのです

- 152 人々は彼が元気で無傷でいるのを見ました
風呂に浸かっていたとしてもそんなに心地よくはなかったでし
ょう
彼が言うには、足に下に踏み台があったので
一年間ぶら下がっていても何でもなかったでしょう

- 153 彼を吊るした者たちがその事を聞くと
彼らは結び目が誤って緩かったのだらうと思い
首を刎ねなかったことをいたく後悔しました
しかしこの事を後で喜ぶことになるでしょう

- 154 衆議の一致すところとなりました
結び目が悪かったので失敗したのです
しかし今度は鎌か剣で斬首すべきです
盗人1人のために町が恥をかかないように

- 155 一番身軽な若者たちが首を落としに行きました

良く切れる大きな、古い短剣をを持って行きましたが
聖母が間に手を差し入れて
ノドの血管は無傷ですみました

156 彼らが傷つけることができず
聖母が彼を守ろうとしているのを見て取ると
彼らはそのことをやめなければならず
ついに神が望むまで彼を生かしておくことにしました

157 彼らは彼が自分の道を行くままに放っておきました
というのは聖マリアに逆らいたくなかったからです
彼は生活を改善し、馬鹿なことは止め
時が来ると世を去りました

158 このように慈悲深く寛大な聖母は
善人にも悪人にも慈悲を施します
私たちは心から彼女を祝福しなければなりません
彼女を祝福した人々は大いなる富を得ました

159 聖母の業と彼女の生んだ方とのそれは
それを知った人にはとても似た物に見えます
彼は善人にも悪人にも、すべての人のところに行きました
彼女もまた求められればすべてのひとのところに駆けつけまし
た

7 修道士と聖ペトロ

- 160 公国の首都である富めるケルンに
 聖ペトロ修道院という修道院がありました
 そこにとってもだらしのない修道士がいました
 彼は規則などあまり気かけませんでした
- 161 彼はあなり頭が悪くなく馬鹿な事ばかりしていました
 罰してもぜんぜん効き目がありませんでした
 そうこうするうちに大きな不幸が彼に降り掛かりました
 娼婦が彼の子供を産んでしまったのです
- 162 彼は体の健康のため、そしてさらに元気に生活するために
 シロップ²⁸⁾を素早く毎日飲んでいました
 冬は暖めて、夏は冷たいのを飲んでいました
 彼は敬虔であるべきだったのに、はつらつとしていました
- 163 彼は波瀾万丈の人生を送り
 己の罪のために最悪の時に死にました
 聖体拝領²⁹⁾も告解もしなかったので
 悪魔は彼の魂を牢獄へ連れて行きました
- 164 使徒聖ペトロは彼を哀れました
 というのも彼が自分の修道院で仕えていたからです
 ペトロはイエス・キリストに非常に熱心に祈り

彼に憐れみを分け与えくれるように願いました

- 165 イエス・キリストは彼に言いました、《愛するペトロよ、
あなたはダビデが聖書で言ったこと³⁰⁾を良く知っているでし
ょう

聖なる山で休むのは

汚点なく罪を免れて入った者です

- 166 あなたがひざまずいて願う者は
正義を行ってもいないし、汚点なく生きたわけでもありません
彼がいたおかげで修道院は評判を落としました
自分にふさわしい椅子に座るのが良いでしょう》

- 167 聖ペトロは力天使（137 参照）たちに祈りました
悔悟者たちのために御父に願ってくれるようにと
この男が死の縄から解き放たれるようにと
しかし御父からは同じ言葉が返ってきました

- 168 彼はわれらの主の母である聖母のところへ戻りました
そしてまた彼女の家の他の乙女たちのところえも行きました
彼女たちはキリストに懇願しに行き
修道士の靈魂のために祈りました

- 169 主が聖母と
彼女の友達たちのすばらしい行列を見ると
大々的に彼女らを向かえに出ました

これを見た魂は本当に幸いだったでしょう

- 170 《母上—とキリストは言いました—私は知りたいのです
何故この方々といらしたのですか》
《息子よ—と聖母は言いました—あなたにお願いに来たのです
ある修道院の修道士の魂のために》
- 171 《母上—と御子は言いました—公正な事ではないでしょう
そのような男の靈魂がそのような喜びを得るといのは
そうなれば聖書全体が損なわれるでしょう
しかしあなたの願いにはなんとかしましょう
- 172 私はあなたの愛に十分なことをしたいと思います
靈魂を元の体に返してください
そして罪人がするように償いをさせてください
そうすればより良く救われるでしょう》
- 173 聖ペトロはこのやさしい命令を聞くと
自分の務めが首尾よく運んだのを知りました
彼は邪悪な集団である悪魔のところへまた行き
彼らが運んでいた靈魂を無理やり取り上げました
- 174 そしてそれを非常に聡明な二人の少年に与えました
非常に神聖な天使のような子供たちです
彼らに喜んでそれを託したのです
それは靈魂をまったく安全に元の体に返すためでした

- 175 少年たちはそれを誠実な修道士に渡しました
 子供の時から修道院で育てられた人物です
 彼は靈魂を死装束で横たわっている体のところへ持って行きました
 その修道士は生返りました、神が賛美されんことを！
- 176 彼の靈魂に導き手が、
 私が先ほどあなた方に話した良き修道士のことですが、言いました
 《神と聖母に頼んでください
 あなたが毎日私のために祈るようにと
- 177 もう一つお願いがあります、私の墓を
 それはすっかりゴミに覆われているのですが
 あなたが丁寧に掃かせてください
 あなたがそうしてください、神様が幸運をお与えくださいます
 ように》
- 178 修道士は、死んだ方の修道士ですが、生き返りました
 しかし一日中まったく呆然としていました
 ついに意識をすべて取り戻すと
 何が起こったのか修道院に話しました
- 179 彼らは感謝を神と聖母と
 天国の門番である聖なる使徒に捧げました

使徒は自分の修道士を助けたことで非常な責めを受けたので
この奇跡は全然価値のないものになりました

- 180 誰も心に疑いを抱かないように
こんな事が起こりうるのかどうか言わないように
聖母をしっかり信ずるように
そうすればこの事が道理に反しないことが分るでしょう
- 181 聖母は祝福に満ちており
恩恵にも満ちて、欠点がありませんから
彼女にはどんな願いも拒まれないでしょう
御子がこのような御母にノーとは言わないでしょう

8 サンティアゴへの巡礼者

- 182 皆さん、お願いですから
もう一つの奇跡の話を聞いてください、本当に美しい話です
クリュニー修道院³¹⁾の院長、聖ウゴが書いた話で
彼の修道会の修道士に起こったことです
- 183 彼の修道院のギラ³²⁾という名の修道士は
修道士になる前はあまり賢明な人ではありませんでした
時々バカなことをしたり罪を犯していました
気ままな独身男によくあることですが
- 184 ある日彼が座している時に心に

スペインの守護の聖人³³⁾の所へ巡礼に出ようという思い
が起きました
支度を整え同伴者を探し
旅の日程を決めました

- 185 彼らが出発しようとした時、彼が悪さをしました
不寝祈禱をする代わりに愛人と同衾したのです
戒律が定めるように償いもせずに
痛む良心で旅に出ました³⁴⁾
- 186 まだあまり道を進んでいませんでした
三日目ぐらいだったでしょうか
道で出会いがありました
良い出会いに見えましたが実はそうではありませんでした
- 187 年をとった悪魔は常に裏切るものです
彼はすべての悪事に通じていました
時々彼は創造主の天使に見えるのです
それでいて長けた悪魔で、悪い誘惑者なのです
- 188 偽物が本当の天使に化け
みちの真ん中に立ち止まりました
《ようこそ—と巡礼者に言いました—
私にはあなたは子羊のように純朴な小さな存在に見えます
- 189 あなたは私の家へ来るために自分の家を出ました

出ようとする時にあなたはバカな事をしました
 罪の償いをせずに巡礼をしようとしていますね
 これは聖母が喜ばないでしょう》

- 190 《あなた様はどなたですか》と巡礼者は言いました
 彼は答えて言いました《私はゼベダイの子ヤコブです
 ちゃんと知りなさい、友よ、あなたは間違っています
 どうもあなたは救われたいようですね》
- 191 ギラは言いました《それではあなた様は私にどうしろと仰るの
 ですか
 あなた様が仰ることなら何でもしたいと思います
 どうも私は大変な事をしてしまったようですから
 私は修道院長様たちの言う償いをしませんでした》
- 192 偽のヤコブは言いました《これがお裁きです
 姦淫を働いた体の部位を切り落としなさい
 それから首を切り落としなさい、そうして神にお仕えするの
 です
 あなたの肉自体で犠牲を捧げるのです》
- 193 その不幸な男は頭がおかしくなり、混乱してそれを信じました
 研いであったナイフを取り出し
 その不幸な狂人は陰部を切り落とし
 それから首を切って、破門³⁵⁾ されて死にました

- 194 彼と一緒に出発した仲間たちが
ギラのところへ来て彼がこうになっているのを見ると
今までになかった強烈な恐怖に襲われ
どうしてこんな事になったのか思いつきませんでした
- 195 彼らは泥棒に首を切られたのではないことは解りました
何も取られていないし何も奪われていませんでしたから
彼は誰とも対決していませんでした
彼らはどうしてこんな事になったのか解りませんでした
- 196 皆だだちにちりじりに逃げました
彼らはこの死の疑いをかけられると思ったのです
自分たちがこの事で悪くないのに
もしかして捕らえられて責められると思ったのです
- 197 そのような事を言った者と手下たちは
大きい者も小さい者も、子供も大人も
このような偽りの裏切り者たちは巡礼者の魂をつかんで
火のところへもって行き酷い汗をかかせようと思いました
- 198 彼らはそれを粗末に運んでいましたが
自分への巡礼者である聖ヤコブがそれを見て
大急ぎで道に駆けつけ
彼らの正面に立ちました
- 199 《放しなさい—と彼は言いました—あなたたちが運んでい

る獲物を、悪者たちよ
 あなたたちが考えるほど確実に捕まえてはいません
 丁寧になさい、暴力を使ってはいけません
 あなたたちはそうしようとしてもできないと思います》

- 200 1人の悪魔が反発して頑固にそこに立ち留まりました
 《ヤコブ、あなたは私たち皆を愚弄するつもりですか
 あなたは正しい道理に反しようとするのですか
 あなたは修道服³⁶⁾の下に奸計を隠し持っています
- 201 ギラは罪を犯しました、自らの手で命を断ったのです
 ユダの兄弟として裁かれるべきです
 彼はとにもかくにも私たちの教区民です
 ヤコブ、私たちに対して悪党になろうとしないでください》
- 202 聖ヤコブが彼に言いました：おしゃべりな裏切り者よ、
 あなたのおしゃべりは一文の価値もありません
 私の声を偽りの代弁者として使い
 偽りの助言を与えて私の巡礼者を殺しました
- 203 もしあなたが自分は聖ヤコブだと彼に言わなかったなら
 もし彼に私のホタテ貝の印し³⁷⁾を見せなかったなら
 自分のハサミで自らを傷つける事はなかったでしょうし
 今のように道の外に横たわっていることはないでしょう
- 204 私はあなた方一行に非常に傲慢な振る舞いを受けました

私のイメージがあなた方に侮辱されたと思います
 あなたは私の巡礼をありふれた嘘で殺しました
 その上彼の魂はひどういめに遇っています

- 205 乙女マリアのお裁きに任せなさい
 私はこのもめ事を彼女に訴えます
 そうでなければあなた方から解放されません
 というのは非常な裏切りが仕組まれているのが解るからです

- 206 双方が聖母に訴えを出しました
 両者とも事ははっきりしていました
 聖母は言い分を理解して
 もめ事をうまく治めました

- 207 彼が被った欺きは彼のためにならなければなりません
 彼は聖ヤコブに従おうとしました
 そのことによって自分が救われると思ったからです
 詐欺師はもっと苦しむべきです

- 208 聖母は言いました、《私はこう命じます、そしてそれが裁定です》
 あなた達が争っている魂は
 体に戻して償いをさせなさい
 それから彼はふさわしい裁きを受けるでしょう

- 209 裁定は実行されました、それは神に承諾されたのです

小さな魂は体に戻されました
悪魔とその一行には残念なことでしたが
魂は元の住処に帰ったのです

- 210 転がって横たわっていた体は起き上がりました
首を切られたギラは顔をきれいにしました
ちょっとの間取り乱したようにしていました
寝ていて不機嫌に目覚めた人のように
- 211 首を切られた傷は
ほとんど跡が見えませんでした
彼は痛みや熱は感じていませんでした
皆言いました《この人は運が良かった》
- 212 他の事に関してはまったく健康で回復していました
体に付いた小さい傷を除いては
しかしすっかり切り取った陰茎は
少しも生えてこず、そのままでした
- 213 彼はまったく健康で、まったく癒えていました
小水をするための穴が残っていました
彼は持ち運んでいた糧食を要求しました
快活に満足して、旅を続けようと考えていました
- 214 神と聖マリアに感謝を捧げました
そして巡礼で行く聖なる使徒にもそうしました

道を急ぎ、仲間に追いつきました
彼らはこの奇跡を毎日楽しく語り合いました

- 215 この驚くべき奇跡はコンポステラに³⁸⁾響き渡りました
町の皆が彼を見にやって来ました
彼らは言いました、《このような事は書き留めておくべきです
これから来る人たちは聞いて喜ぶでしょう》

- 216 彼が巡礼を終えて故郷に帰えり
人々が起こった事を聞くと
大きな歓声を上げてました、人々は突き動かされて
死から蘇ったこのラザロ³⁹⁾を見ようとしてました

- 217 この巡礼は自分の冒険を考えてみました
いかに神が彼を邪惡な齒から救い出してくれたのか
彼は世を、友達を、親戚を捨て
クリューニ修道院に入り悔悛者の衣をまといました

- 218 クリューニ修道院の院長で義人のユーゴは
敬虔で至聖なる人物で
実際に起こったこの奇跡をよく語っていました
彼はそれを誠実に書物にしました

- 219 ギラは修道院で生涯を、正しい生活を送って、終えました
言葉と行いで創造主に仕えながら
身を良く保ち、罪を悔いながら

悪い敵は笑って彼の所を離れませんでした

犯した罪は神にちゃんと償いをしました

9 無知な司祭

220 彼は知識に乏しい素朴な司祭でした
 毎日聖母に捧げるミサを挙げていました
 他のミサを挙げることを知らず、毎日そのミサを挙げていまし
 た
 知識と言うより習慣でそれを知っていたのです

221 この司祭が司教に訴えられたのです
 馬鹿で、明らかに悪い司祭だと
 ただ《御機嫌よう、聖なる母》⁴⁰⁾と唱えるだけで
 この愚鈍で、鈍い司祭は他のミサを知りませんでした

222 司教はひどく立腹して
 言いました、《司祭でそのような所行の者は聞いた事がない》
 そしてまた言いました、《その育ちの悪いのに言いなさい
 私のところに来るように、策を弄してやめないように》

223 その罪深い司祭が司教の前に現われました
 ひどい恐れで色を失っていました
 恥ずかしさで高位聖職者を見ることができませんでした
 こんなにひどく汗をかいたみじめな男はいませんでした

- 224 司教は言いました、《司祭よ、本当のことを言いなさい
あなたの愚かさは人々が言っているほどかどうか》
その善良な男は彼に言いました、《司教様、お願いします、
もし違うと言えば嘘になります》
- 225 司教は言いました、《もしあなたにはないなら
他のミサをあげる知識も、センスも能力もないなら》
私はあなたにミサを挙げる事を禁じ次のように命じます
別の才覚でふさわしい生き方をしなさい
- 226 司祭は悲しく打ちひしがれて帰って行きました
非常に恥じ入り、とても大きな衝撃を受けて
泣き濡れて聖母のもとに帰りました
打ちのめされてていたので助言をもらうために
- 227 決して聖母は
自分に心から跪く者を見捨てたことがなく
その司祭の願いをすぐに聞き入れ
遅滞なくただちに彼を助けました
- 228 非の打ち所のない聖母は
幻でただちに司教に現われ
強い言葉で激しい説教をしました
そのようにして彼女は心のうちを司教に示したのです

- 229 聖母は彼に激しく言いました、《傲慢な司教よ、
なぜあなたは私にあんなに強固で悪辣だったのですか
わたしはあなたから穀一粒ほども取り上げたことがないのに
あなたは私から司祭を取り上げたのです
- 230 彼は私に毎日ミサを挙げてくれていたのに
あなたは彼が異端の過ちを犯していると思い
彼を獣か道を外れたものと判断し
司祭の位を取り上げました
- 231 もしあなたが彼に私のミサを挙げることを命じないなら、
今までしていたようにと命じないなら、大事になりますよ
そして 30 日以内にあなたは死ぬことになるでしょう
そこであなたたはマリアの怒りがいか程のものか分るでしょう》
- 232 この恫喝に司教は驚きました
ただちに禁止された司祭を呼びにやるように命じました
司教は彼に犯した過ちを許してくれるように頼みました
というのはこの場合彼はひどく欺むかれていたので
- 233 司教は彼に今まで通りミサを挙げるように
祭壇で聖母の僕であるように命じました
もし着るものや履くもので何か足りないものがあつたら
司教自身のものを与えるよう命じることでしょう
- 234 その義人は司祭職に戻り

聖母マリアに仕えました

彼は聖務中に（話し手である）私が望むような死を迎えました
魂は栄光へと、そして優しい仲間たちのもとへと向かいました

- 235 私たちはそんなに多くは書いたり祈ったりはできないでしょう
たとえ何年も長らえることができたとしても
奇跡の十分の一は物語れるかも知れません
それらは神が聖母を通してお示しくださるものです

10 二人の兄弟

- 236 あの高貴な町、ローマに
それは全キリスト教世界の師であり主人なのですが
非常に権威ある二人の兄弟がいました
1人は司祭で、もう1人は執政官でした
- 237 司祭の方をピエトロ⁴¹⁾と呼んでいました、何かそんな名前でした
博学で高貴な人物で、枢機卿でした
しかし欠点のなかに一つ常軌を逸したものがありました
彼はひどく貪欲だったのです、これは大罪です
- 238 二番目の兄弟はエステバンという名でした
元老院議員の中で彼より思い上がった人はいませんでした
彼はローマ市民の中で非常に力がありました
掠め取ること⁴²⁾において非常な手腕の持ち主でした

- 239 非常に貪欲で多くを欲しがりました
所有欲で判決を歪曲していました
人から取れるものは取っていました
正義よりお金を大事にしていました
- 240 彼の舌先から出る偽りの判決で
殉教者聖ロレンソ⁴³⁾ から3軒の家屋を奪いました
聖アグネス⁴⁴⁾ は彼のために良い土地を失いました
そこは大変に価値のある果樹園でした
- 241 枢機卿で名誉あるドン・ペイドロ⁴¹⁾ が死ぬと
煉獄に、そこは彼にふさわしいところですが、連れて行かれま
した
数日もしないでエステバンが死にました
彼は自分が下したような裁きを予期していました
- 242 聖ロレンソが彼を見ると、嫌そうに見つめて
三度彼の腕で強く締め付けました
ドン・エステバンは腹の中で不満の声をあげました
鉄のベンチでもこんなに強く締め上げる事はできなかったでし
ょう
- 243 聖アグネスが自分の果樹園を奪った者を見ると
彼に背を向けて歪んだ顔で彼を見ました
するとエステバンが言いました、《これはがっかりだ、

私たちの儲けはなくなってしまった》

- 244 正しい判事である我らの主なる神は
その方には酒倉も穀倉も隠しておけないのですが
この男は悪い石弓の使い手で
1人だけでなく多くの人の目を眩ませたと言われました
- 245 《悪い弁護で多くの人から奪いました
いつも自分の罪で裏切りを画策していました
私たちの仲間に入るに値しません
ユダと共にあの養護室⁴⁵⁾に行けば良いのです》
- 246 古い戦士達⁴⁶⁾が彼を綱で縛りました
私たちにとって常に不倶戴天の敵だった者たちです
彼らは食事にリングもイチジクも与えませんでした
与えたのは煙と酔と傷とつねりでした
- 247 彼は他の罪人たちと兄弟を見ました
さもない兄弟は汗だくでした
声をあげ、叫び、涙を流し、泣いていました
彼には非常に多くの悪い従者がついていました
- 248 すでに彼はねぐらの近くに連れてこられました
そこは満足なものが見えないところです
太陽も月も雨露も
壁に挟まれた闇のような所にいることになるでしょう

- 249 彼は兄弟に言いました、《兄弟よ、言ってくれ、僕は聞きたい事があるんだ
君はどんな罪でこんなひどいことになっているんだい
というのはもし神がお望みなら僕が何とかしてあげられるんだ
できる限り君に助けを探してあげよう》
- 250 ペイドロ⁴¹⁾ は言いました、《僕は生きている時とても貪欲だった
僕は貪欲を友としてやってきた
だから今こんな悲惨なことになっているんだ
したことの報いを受けるのが法であり正義なんだ
- 251 しかしもし教皇様が司祭たちと共に
僕のために一日だけミサを挙げてくださるなら
僕は聖母マリアにおすがりしようと思う
神がただちに僕に何か良い事をしてくれるように》
- 252 この男ドン・エステーバンについては我々は多くを語りましたが
なぜならマントの下に多くの悪をかくしていたので
でも一ついい点がありました、1人の聖人を愛していたのです
とても愛していたので私たちはどれくらいか言うことができません
- 253 彼は非常に価値ある殉教者聖プロイェクトゥス⁴⁷⁾ を
愛していたのです
良き主人として祭日を守っていました

彼のために盛大なミサと挙げ、非常な敬意を払っていました
そして貧者や司祭に対してはできるだけのことをしていました

- 254 ロレンソとアグネスは怒っていましたが
というのはかつて彼らから奪ったからです
憐れみを覚え穏やかになりました
彼らは彼の罪よりも神に重きを置きました
- 255 彼らは尊敬する聖プロイェクトゥスのところに行き
言いました、《聖プロイェクトゥス、居眠りしてはいけません
愚弄されているエステーバンのことを考えてください
あなたに仕えたのだからご褒美をあげてください》
- 256 聖プロイェクトゥスは星よりも輝く聖母のところに行きました
彼は懇願して聖母を動かし、彼女と共に神の御前に出ました
鞠のように扱われているこの魂のためにお願いをしました
訴えによって裁かれないようにと
- 257 この願いに我らの主なる神は次のように答えました、
《あなたたちの愛故に十分な恩恵を授けましょう
罪人の魂を肉体に返して
それからしかるべき栄誉を受けるように
- 258 30日間もあればいいでしょう
彼のすべての悪行をただすのには

しかし私の言葉で彼にはっきり言うておきますが
彼のすべての悪行も終わりです》

- 259 請願者たちは神に大いなる感謝を捧げました
なぜなら罪人たちを哀れまれ
この魂を裏切り者たちの手から解放されたからです
彼らは常に信者たちをだます者たちです
- 260 この事を悪魔たちが聞くと
押さえていた魂を放しました
聖プロジェクトゥスはそれを取り返して手中におさめ
その住処である肉体に導きました
- 261 創造主の母である聖母が言いました
《エステバン、良き主なる神に感謝しなさい
これ以上ない恩恵をあなたに授けてくださいました
悪を慎まないと、さらにひどい事になりますよ
- 262 エステバン、あなたにさらに忠告を一つしたいと思います
エステバン、あなたが従わなければならない忠告とはこうで
す
私はあなたに毎日詩編を一つ唱えることを命じます
“(道において) 正しい者は幸いである”⁴⁸⁾ これは
唱えるのにとっても良いものです
- 263 もしあなたがこの詩編を毎朝唱え

教会にたいして為した悪しき事を改めるなら
世を去る時にあなたの魂は栄光を得て
罰とつらい場所を免れるでしょう》

- 264 エステーバンは蘇りました、神に感謝！
彼は教皇に見たことをすべて話しました
愛する兄弟であるペイドロ⁴¹⁾が彼に言ったことをも話しました
ペイドロは非常に苦しんで不幸でとても悲しい状態でした
- 265 エステーバンは紫色になった腕を見せました
そこを聖ロレンソがつかんだのです
彼はひれ伏して教皇に慈悲を乞いました
不幸なペイドロのためにミサを挙げてくれるように
- 266 人々を信じさせ、信じてもらうために
彼は30日したら自分は死ぬだろうと言いました
皆は言いました、《これは確かな印しです
本当のことを言おうが言うまいがいずれ分かるでしょう》
- 267 彼は奪われた人々に十分に返却し
悪事を働いた人々には満足がいくようにしました
司祭にすべての罪を告白しました
自分のした事、言った事、考えた事をすべて
- 268 すでに4週間目の終わりに来ていました
30日にはあとわずかでした

エステーバンはローマの人々に別れを告げました
彼は神の言葉が空虚なものでないことを知っていたのです

- 269 30 日目に告解をして
非常に敬虔に主の体（聖体）を受けました
床に入り祈りを捧げ
神に魂を返し、祝福されて死を迎えました

11 貪欲な農夫

- 270 ある所に 1 人の農夫がいました
他の仕事よりも鋤を使う仕事をしていました
創造主よりも土地を愛していて
非常に悪魔的な男でした
- 271 彼はある罪を犯しました、とても汚い罪です
土地を得るために境界標識を変えたのです
大きな不正とごまかしを働きました
近所で悪い評判が立っていました
- 272 悪い男でしたが聖マリアを愛していました
彼女の奇跡を聞き、それらを歓迎していました
いつも彼女に挨拶して、毎日次のように言っていました
《メシアを生んだ聖寵に満ちた方、御機嫌よう》
- 273 この大地主が死むと

すぐに悪魔たちの綱で捕らえられました
 悪魔たちは彼を何度も蹴飛ばして綱で引きずって行き
 彼の盗んだパンの2倍の額を支払わせました

- 274 天使たちはこの哀れな魂に心を痛めました
 悪魔たちに魂が奪い去られるのです
 天使たちは彼を救って、その魂を隣人として迎えようと思いま
 した
 しかしそのようなパスタを作るには彼らには粉が足りませんで
 した

- 275 天使たちが彼らにちゃんと道理を言っても
 他の者たちが百の道理に合わない不合理な事を言いました
 悪しき者たちが良き者たちを隅に追いつめていました
 魂は犯した罪のために牢獄から出られないでいました

- 276 1人の天使が立ち上がって言いました、《私が証人です
 私があなた達に言うこのことはウソではありません、本当のこ
 とです
 この魂が携えている肉体は
 聖マリアの僕^{しもべ}であり友でした

- 277 昼食のときも夕食のときもいつも彼女のことをを口にしていま
 した
 彼女に三つの言葉を掛けていました、“聖寵に満ちた方、御機嫌
 よう⁴⁹⁾”

そのような聖なる言葉を発する口が
 このような酷い鎖に繋がれているのはふさわしくありませんで
 した》

- 278 聖なる女王のこの名前を
 悪魔たちが聞くやいなや、たちまち逃げ去り
 皆霧のように消え去りました
 哀れな魂を置き去りにして
- 279 天使たちはその魂が見捨てられているのを見ました
 手足がしっかり綱でしばられていました
 それはイバラにまみれた羊のようでした
 天使たちは行って囲いの中に戻してやりました
- 280 (聖母の) 御名はかくも祝福され効力があり
 敵を追いつめ驚かせ
 私たちに皆舌もノドも痛めずに、“御機嫌よう、聖なる女王⁵⁰⁾”
 と言わしめます

12 修道院長と香部屋係

- 281 パピーアと呼ばれるすばらしい町に
 それはロンバルディーアにある非常に豊かな町ですが
 そこに裕福な修道院があり
 とても善良な人々と非常に聖なる仲間がいました

- 282 その修道院は敬意を表して建てられました
世を救った方、つまり聖なる主である救世主に対する敬意です
たまたまそこにはひとりの修道院長がいて
好き勝手に生きていました
- 283 その善人は間違っただけを言っていました
彼は規則で禁じられている多くの汚い事を言って
あまりきちんとした生活は送っていませんでした
しかし聖務日課はちゃんと守っていました
- 284 彼には一つ有益な習慣がありました
彼は正しい修道士としてすべての聖務日課を果たしていました
聖母に対する日課ではいつも起立していました
それ故悪魔は彼に非常な憤りを覚えていました
- 285 彼はいくつかの事において不器用に見え
言ったとおり口が悪かったのですが
聖母を愛することにおいては非常に熱心で
心から⁵¹⁾ お務めを果たしていました
- 286 神が望んだ時に修道院長が死を迎えると
ひどい所に追いやられました
だれも語ることができないでしょう
修道院長が被った悲惨さを、また想像もできないでしょう
- 287 その修道院には1人の香部屋係がいて

香部屋のものを管理していました
名をウベルトと言い、正気で狂ったところのない男で
彼のために修道院は評価を高めていました

288 ある明け方早く朝の祈りの前に
この修道士は朝の祈りを唱えるために起き出しました
朝の祈りを鐘で知らせ、皆を起こし
ランプを用意し、建物を照らしました

289 前に述べた修道院長ですが
死んで一年経っていましたが
彼の事例が最近また取りざたされました
埋葬された日と同じように

290 香部屋係だった修道士は
鐘を鳴らす前に
明かりがちゃんとつくようにランプを掃除していましたが
不思議な驚愕に襲われました

291 彼は男の弱々しい疲れた声を聞きました
声は一度だけでなく言いました、《ウベルト修道士》
ウベルトはその声に聞き覚えがあって全然疑いませんでした
それが修道院長ものだ、とても驚きました

292 彼は教会を出て医務室に行きました
彼の心は恐怖に捕われていました

巡礼の時でもそんなに急ぎはしなかったでしょう
恐怖⁵²⁾ が彼を突き動かしていました、誓ってそうです

- 293 そのようだったので力が抜けていました
彼は声を聞きました、《ウベルト、ウベルト、なぜお前は私に返事をしないのか
さあ、怖がらないで、決して怯えてはいけない
私にどう話すのか、どう尋ねるのか考えなさい》

- 294 そこでウベルトは言いました、《院長様、誓ってあなたには義務があります
あなたはどのような状態なのか私に話さなければなりません
修道院総会があなたがどうなったのか知るように
あなたがどのような状況にあるのか、あるいは何をあなたは待っているのかも》

- 295 修道院長は彼に言いました、《ウベルト、私の召使いよ、
今までは私の状態は悪かったと知りなさい
私は過酷で荒涼とした所に追いやられました
その地の王者はスミルナ⁵³⁾ と呼ばれていました

- 296 私は非常に惨めな目に遭いました、とても酷い日を過ごしました
た
私の被った不幸を言い表すことはできないでしょう
しかし聖マリアがそこを通りかかり
私の被った不幸を悲しみ、悔やんでくださいました

- 297 彼女は私の手を取って私を連れて行きました
 温暖な暖かい所へ連れて行ってくれたのです
 私を死をもたらず敵の抑圧から解き放ってくれたのです
 危険なく生きられる所に私を置いてくれました
- 298 聖母に感謝、恩寵に満ちた方です
 私は労苦から、苦痛から逃れています
 私は甘美なミツバチの巣箱の近くの甘美な花園のいました
 そこでは決して昼食や夕食が欠けることがないでしょう》
- 299 そのうち声は止まりました、修道院が目覚めたのです
 皆進んで教会に行きました
 朝の祈りを唱えて代禱⁵⁴⁾をしました
 神の御心にかなうように
- 300 朝の祈りが終わり、夜が明けました
 そしてただちに1時課⁵⁵⁾が、それから連禱⁵⁶⁾
 が唱えられました
 それから聖なる仲間たちは参事会議室にいきました
 というのはこれが修道士の権利であり習慣ですから
- 301 参事会議室に入ると聖書が読まれました
 香部屋係は跪いて
 自分見たことをすべて修道士たちに話しました
 あまりの任務に涙を流しながら

- 302 皆が聖母に感謝を捧げました
 彼女はいつも臣下に慈悲深いのです
 彼らは美しい賛美歌を歌いながら教会に行き
 すべてを文書に書き留めました
- 303 それから間もなくして香部屋係は死にました
 それは神がすべてのキリスト教徒に与える最後でした
 彼は厳しい冬から心地よい夏に入ったのです
 彼は天国へ行きました、そこでいつまでもつつがなく過ごすこと
 でしょう
- 304 これがこのような聖母に仕えることの最高の益⁵⁷⁾です
 彼女はこのように時に僕^{しもべ}のもとへ駆けつけることを知っている
 のです
 これが良き幕屋であり、良き牧者です
 彼女は自分に祈るすべての人に優しく手を差し伸べるのです
- 305 このような不思議を聞いた人は皆
 心に更なる信仰心を抱きました
 より心を込めて聖母を愛し
 苦難の時に彼女にすぎるように

注

26) 中世期、橋の建設や補修は市民の義務の一つであった

27) この時代、顔を引っ掻くことはし死者に対する哀悼の念を表す行為であった

- 28) 薬用シロップは当時肉欲を抑えると考えられていた
- 29) 原文はラテン語で Corpus Domini（主の体）とあり、聖体（拝領）のこと
- 30) 旧約聖書詩編 15
- 31) フランスの修道院 聖ウゴはフランス語では Saint Hugo（サン・ヒューゴ）で 1049 年 25 才で院長になっている
- 32) Guiralt
- 33) apóstol de España キリストの 12 使徒の 1 人で大ヤコブ
- 34) 巡礼の前には不寝祈禱をし、翌朝告解し、罪の許しを得て、ミサにあずからなければならなかった
- 35) 自殺は神への信頼を失うことなので許されない
- 36) escapulario 修道士の肩衣で肩から修道服の前後に垂らす
- 37) サンティアゴへの巡礼者は先にホタテ貝がついた杖をついていた。貝は生命・復活の印しであった
- 38) Santiago de Compostela 巡礼の目的地
- 39) 新約聖書ヨハネ伝 11.1-44
- 40) ラテン語で《Salve Sancta Parens》9 月 8 日の聖母の誕生を祝うミサの入祭文
- 41) ペテロのこと、スペイン語 Pedro, イタリア語 Pietro
- 42) ラテン語で《prendo, prendis》prendere（取る）の直説法現在 1 人称単数と 2 人称単数
- 43) スペインのウエスカ生まれの聖人で、258 年にローマで殉教
- 44) 350 年頃 12 歳で殉教
- 45) 地獄
- 46) 悪魔たち
- 47) クレルモン・フェランの司教で殉教者
- 48) 旧約聖書詩編 118 冒頭の句、訳は筆者による
- 49) ラテン語、Ave, gratia plena.
- 50) ラテン語、Salve Regina Sancta
- 51) ラテン語、de suo corde toto
- 52) 原文 don Bildur, bildur はバスク語で「恐れ」
- 53) ここでは悪魔の意、スミルナは新約聖書黙示録 2-8 に出てくる小アジアの地名であるが同音のギリシャ語（σμίρνα）はミイラ製造などに用いられる「没薬」の意がある
- 54) 「執り成し」とも言われ、キリストや聖母、諸聖人の執り成しにより神に祈ること

- 55) 午前6時ごろに唱える祈り、ローマ時代からの時間では昼は12に夜は4つに分けられていて、日の出が第1時、日の入りが第12時であった
- 56) 司祭が先誦し、信者答える答誦的な祈で、ここでは修道士が答える
- 57) ラテン語、summum bonum